



グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Fall 2004 Vol.5, No.4

「日・ASEAN対話」開催さる 「東アジア共同体へのロードマップ」

グローバル・フォーラム (GF) は、7月22-23日に東京において、ASEAN戦略国際問題研究所連合 (ASEAN-ISIS) および東アジア共同体評議会 (CEAC) との共催・協力により、第3回日ASEAN対話「東アジア共同体へのロードマップ」を開催した。

138名の参加を得て、22日の伊藤憲一GF執行世話人主催開幕夕食会、23日の本会議 I、II、III、総括の4セッション、昼食講演会、伊藤憲一CEAC議長主催夕食懇談会と、多彩な行事が展開された。

経済統合に向けて

本会議 I 「経済パートナーシップの強化」では、まず浦田秀次郎早稲田大学教授から「経済統合への踏み石として、ASEAN+3を中心とした東アジアを包摂する経済連携協定 (EPA) を実現すべし」、ついでハザイミ・ハミド・マレーシア戦略国際問題研究所上席研究員から「今年末のASEAN+3首脳会議で、東アジア事務局創設を提案すべき。東アジアにおける平和共同体、経済共同体、外交共同体創設への原動力となる。共通通貨創設も同じだ」との基調報告がなされた。

これに対し「米国等に対して排他的・対抗的にならない、開かれた地域主義



パネリストたち (正面) を迎えた本会議

を目指すべきだ」(塩谷隆英総合研究開発機構理事長)、「ASEAN共同体がまずある。それを東アジア全体に広げるべきだ」(パイサン・ルパニッチャキッド・タイ外務省ASEAN局一等書記官) 等のコメントがなされた。

政治・安全保障協力の展望

本会議 II 「政治・安全保障におけるパートナーシップの強化」では、まず、カロリナ・ヘルナンデス・フィリピン戦略開発問題研究所理事長から「ASEAN諸国は、日米安全保障同盟を支持しており、地域の安全の要であることを認識している」、ついで山影進東京大学教授から「共同体形成のためには、政治の決断が必要だ。東アジア共同体の構築は、経済分野が先行するだろうが、早晩安全保障分野での協力を加えなくてはならない」との基調報告がなされた。

これに対し「ASEANの安全保障共同体にコミットすべきか、アメリカの安全保障の傘に入るべきかというジレンマがある」(シソワット・ドゥオン・カンボディア平和協力研究所副所長)、「エネルギーや食糧を紛争の種にせず、どうマネジメントしていくかが重要だ」(前原誠司衆議院議員) 等のコメントがなされた。

文化、広報、交流の強化

本会議 III 「文化、広報、交流における協力強化」では、猪口孝東京大学教授から「『停滞』し『専制的』なアジアという既存イメージが徐々に崩れてきている。急激な経済発展や民主化の進展が背景にある」との基調報告がなされ、これに対し「東アジアにおける



報告するヘルナンデス・フィリピン戦略開発問題研究所理事長 (左から3人目)

シンクタンクのネットワーク作りが必要だ。政治・経済・安全保障の機能的協力につながる」(スンドラン・ブシュパナータン・ASEAN事務局対外関係・調整局対外関係ユニット長) 等のコメントがなされた。

最後の「総括」セッションでは、神保謙GF世話人から「私どもは今、東アジア共同体が必要かどうかという議論の段階を超えた」、またハンク・リム・シンガポール国際問題研究所研究部長から「今何を、そして次に何を、すべきか、つまりロードマップではなく、ロードサインが求められている」との総括がそれぞれ示された。

また、昼食講演会では、ユスフ・ワナンディ・インドネシア戦略国際問題研究所会長から「地域統合の深化のためには、中国の台頭を平和的に進める必要がある、日中の相互信頼が重要だ」との講演がなされた。

なお、この対話の速記録は、ホームページ (<http://www.gfj.jp>) にその全文が掲載されている。



昼食講演会で講演するワナンディ・インドネシア戦略国際問題研究所会長 (中央)

オン・ケン・ヨンASEAN事務総長を招き 第1回「外交円卓懇談会」開催

グローバル・フォーラムは、東アジア共同体評議会との共催で、8月25日、来日中のオン・ケン・ヨンASEAN事務局事務総長(写真中央)をゲストに招き、第1回外交円卓懇談会「東アジア共同



「日米韓対話」開催迫る

本『会報』7月1日号にて既報のとおり、当フォーラムは、米国タフツ大学フレッチャー・スクール、韓国延世大学外交大学院、日本国際フォーラムの三者との共催で「日米韓対話：朝鮮半島の将来と日米韓安全保障協力」を東京で実施する準備を進めてきたが、開催予定日が当初の10月14-15日から11月18-19日に変更された。

米軍のトランスフォーメーションや北朝鮮六者協議の展望などを踏まえ、日米韓協力の可能性を議論する予定。

■経済人メンバー代表者変更

(6-8月分)

[新経済人メンバー]

松野春樹 日本電信電話取締役相談役

事務局便り

「日・ASEAN対話」は「東アジア共同体へのロードマップ」がテーマでした(1頁)。このため「東アジア共同体評議会」(中曽根康弘会長)から「対話」運営への協力の申し出があり、最終日の夕食会は、「東アジア共同体評議会」関係者とASEAN側参加者が懇談する場となりました。

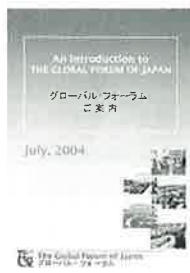
体の可能性とASEAN」を開催した。

オン事務総長からは「日本が長期的視点から東アジア共同体(EAC)の議論を進めていることを多とする。ASEANとしては『ASEAN共同体』の発展の上に日本、中国、豪州等との関係を築いてゆきたいと思っている」との冒頭発言があり、日本側出席者からの「米国の位置づけはどうか」との質問には、「米国を安心させる必要があるが、EACが経済的利益をもたらす限り、米国は不満を示さないだろう」とのコメントがあった。

『ご案内』刊行さる

パンフレット『グローバル・フォーラムのご案内』の改訂版(2004年7月)(写真)が3年ぶりに刊行された。フルカラーで13頁の豪華版。

「世話人名簿」「会員名簿」「歴史」のほか、グローバル・フォーラムの理念、諸活動そして世界的な人的ネットワーク等を丁寧に紹介している。



謝 辞

当フォーラムの諸活動の主要な財政的基盤は、その経済人世話人および経済人メンバーの所属する企業の納入する賛助会費にあります。

現時点における賛助会費納入企業は、下記の13社21口です。ここに特記して謝意を表します。

[経済人世話人所属企業] [5口]

トヨタ自動車 キッコーマン

[経済人メンバー所属企業] [1口]

住友電気工業 鹿島建設 新日本製鐵
東京電力 三井住友銀行 旭硝子
東京三菱銀行 日本電信電話
富士ゼロックス ビル代行
松下電器産業

(入会日付順)

国際政経懇話会



「国際政経懇話会」の6月例会が、23日開催され、近藤誠一外務省文化交流部長(写真中央)から「ソフト・パワーと日本外交」と題し、「4年ぶりに帰国した日本で、知的閉塞感と若者の活躍の両面が併存しているのを感じた。クール・ジャパンといわれる日本の新しい活力を引き出したい」等のご講話を伺った。

その後約1時間にわたり出席者17名との間で懇談が行なわれた。

フォーラム活動日誌(6-8月)

- 6月20-24日「日・ASEAN対話」打合せのためマレーシア出張(神保謙世話人)
- 6月23日第164回国際政経懇話会(近藤誠一外務省文化交流部長他17名)
- 7月7日鄭寅俊駐日韓国大使館公使参事官来訪(伊藤執行世話人)
- 7月22日日・ASEAN対話「東アジア共同体へのロードマップ」伊藤執行世話人主催開幕夕食会
- 7月23日同上「日・ASEAN対話」本会議I~III、昼食講演会、総括、伊藤憲一CEAC議長主催夕食懇談会(Clara Joewonoインドネシア戦略国際問題研究所副所長他137名)
- 7月28日第165回国際政経懇話会(平沼超夫衆議院議員他17名)
- 8月12日李世昌台北駐日経済文化代表処文化組長往訪(神保世話人他)
- 8月25日 Ong Ken Yong ASEAN事務局総長を迎え第1回外交円卓懇談会「東アジア共同体の可能性とASEAN」(伊藤執行世話人他18名)
- 8月27日程永華中国臨時代理大使往訪(神保世話人、渡辺事務局長)



グローバル・フォーラム会報
2004年秋季号
(第5巻 第4号 通巻第20号)

発行日 2004年10月1日
発行人 伊藤 憲 一
編集人 渡辺 蘭

発行所 グローバル・フォーラム
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2190 [E-mail] info@gfj.jp
[Fax] 03-3589-5120 [URL] http://www.gfj.jp/